



グローバル人材育成教育学会

THE JAPAN ASSOCIATION FOR GLOBAL COMPETENCY EDUCATION

URL <https://www.j-agce.org>

発行人 アーナンダ クマーラ

2025年2月20日発行

ニューズレター 第49号

今年度最後のニューズレターです。

今回は、

- (1) 理事長挨拶
- (2) 理事会報告
- (3) 編集委員会報告
- (4) 全国大会開催報告
- (5) 言語教育実践研究部会シンポジウム開催報告
- (6) 国際交流委員会報告
- (7) 支部大会開催報告
- (8) 支部大会開催のお知らせ
- (9) 年会費納入のお願い

についてお知らせいたします。

(1) 【理事長挨拶】

理事長挨拶～第12回全国大会に寄せて～

大六野 耕作 (明治大学顧問・名誉教授)

二月に入り寒い日が続いておりますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。中高・大学の先生方は入学試験・卒業式準備等でお忙しい日々を送っておられるのではないかと拝察いたします。

多くの皆様にとっては、一年中で最も多忙を極める時期ではありましたが、第12回全国大会が、福岡市にある中村学園大学・中村学園短期大学部を会場に100名を超える参加者を集めて開催されましたことを、ご報告申し上げます。

今回の大会では、国際交流委員会が企画したオンライン国際交流会、「若者が日本語で考える Well-being : 私たちはこうやってリラックスする」

が、日本・台湾・ベトナム・スリランカなどの学生をズームで繋いで実施されました。また、学会に新たに設置された「言語教育実践研究専門部会」の発足を記念して、「グローバル人材育成におけることばの教育」(https://j-agce.org/wp-content/uploads/2025/02/con_12-3.pdf)も実施されました。

また、九州支部長の青柳先生・副支部長の佐々木先生のご尽力で、佐賀のプロ野球独立リーグ球団「佐賀アジアドリームズ」を立ち上げ、運営されている山下 翔一氏 (NEO ASIA JAPAN 株式会社 創業者・取締役、球団 GM) をお招きし、日本と世界 (アジア) の「人と文化とお金」の好循環を生み出し地域を活性化する知恵 (グローバル化の新たな視点) に関する刺激的なお話をいただきました。また、日野 稔邦氏 (佐賀県 SAGA2024・SSP 推進局 SSP 総括監兼政策部政策総括監) からは、従来までの行政 (お役所) の思考枠を軽やかに超えて、スポーツとエンターテインメントを融合した SAGA アリーナ実現に関するお話をいただきました。お二人のお話に共通していたのは、従来までに既成概念にとらわれず、国の内外も問わず、自由な発想を持ち、その結果生じるアイデアを、現実のものとする能力・技能を持った人材が「グローバル人材」ではないのか、ということだったのでないかと思いました。

日本の教育は、そうした人材を生み出せているのか? 大学長として4年間、大学の教育改革を担ったものとして、「果たしてそれがどこまでにできたのだろうか?」と忸怩たる思いに囚われた次第

です。

最後に、今回の全国大会から、将来を背負う生徒さんや学生さんを対象に、学会参加に係る旅費交通費等の一部支援を始めました。この支援は、日本の若者のグローバル化を強く望んでおられる、本学会フェロー、近藤信之氏のご寄付を原資としていますことを付け加えさせていただきます。

(2) 【理事会報告】

理事会では、原則として毎月1回、メールによる審議を行っています。

2024年12月度定例理事会

議案1 新規入会について 承認されました。

議案2 会員区分変更依頼について 承認されました。

2025年1月度定例理事会

議案1 全国大会にて臨時理事会の開催について 承認されました。

議案2 全国大会にて定時総会の開催について 承認されました。

議案3 新規入会について 承認されました。

議案4 退会 について 承認されました。

2025年2月度臨時理事会

審議事項 なし

協議事項

議案1 2025年度事業計画（案）について 確認いたしました。

議案2 2025年度業務委託費について 協議し、要検討となりました。

議案3 年会費の値上げについて 協議し、保留となりました。

議案4 表彰について 確認いたしました。

議案5 次期役員選出について 確認いたしました。

議案6 会員種別の追加について 協議し、要検討となりました。

議案7 共同発表者の会員入会について 確認いたしました。

2024年度 学会論文賞決定について

2024年度の学会論文賞は、泉谷道子氏、小林修氏、伊月知子氏による論題「外国人留学生・日本人学生・社会人協働 PBL 型 インターンシップの効果（変革マインドセットの醸成に着目して）」に授与することが理事会において決定いたしました。ご報告いたします。

(3) 【編集委員会報告】

学会誌第13巻第1号への投稿は、実践報告1件、論壇2件でした。第13巻第2号の投稿期間は7月1日から7月31日です。多くの投稿をお待ちしています。

(4) 【全国大会開催報告】

2025年2月8日（土）・9日（日）の2日間、中村学園大学・中村学園短期大学部において、第12回全国大会が開催されました。大会テーマ「個人・組織・社会の Well-Being を目指すグローバル人材育成」にふさわしく、高校生から社会人まで様々な発表者と参加者がそれぞれの立場からグローバル人材としての経験や未来についての意見を交換・共有する大会となりました。海外からオンライン国際交流に参加した生徒・学生を含め、大会参加者は145名でした。悪天候の中、会場に足を運んでくださった参加者の皆様、大会の準備・運営にご尽力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



(5) 【専門部会企画開催報告】

言語教育実践研究部会設立記念国際シンポジウム 開催報告：発足記念シンポジウム盛会裏に終わる

グローバル人材育成に資する言語教育及び言語研究に関わる実践的諸問題を研究し、グローバル人材育成教育の発展を図ることを目的とする「言語教育実践研究部会」（言語部会）が本年度6月新たに設立され（本誌第46号参照）、めでたく部会発足記念国際シンポジウム（企画：言語教育実践研究部会）をJAGCE誕生（2014）の地、福岡で開催することができました。第12回全国大会初日は生憎の降雪で極寒の南国福岡ではありましたが、「グローバル人材育成におけることばの教育」をテーマとした国際シンポジウムは本学会らしく温かい雰囲気の中で真剣なやり取りもあり、成功裏に終わりました。本シンポジウムでは、下記の通り3つの講演の後、フロアとの熱い議論が交わされました。おかげさまで来年度からの部会の本格的な活動に向け、よいスタートを切ることができました。この場をお借りして参加者、シンポジストの方々、積極的にご質問、ご意見を頂きました皆様に深く感謝申し上げます。

本シンポジウムでは、まず、コーディネーター（筆者）から言語部会設立の経緯と目的について略説させていただきました。そして、講演のトップバッターとしてJAGCEの生みの親である小野博名誉会長（中央大学・研究開発機構教授）にご登壇いただきました。演題は「外国語学習と母語の関係：日本語力がないと英語学習の成果が上がらない」であり、大学生の日本語力が英語学習に影響を与えることが長期間に蓄積された膨大なデータを用いて説明され、英語学習には日本語力が重要であること（日本語力が高3レベル以上でない、英検2級を取得しにくい）を力説されておりました。また、英語に自信のない学生を対象としたコミュニケーション能力や異文化対応力を育成する短期集中型英語教育プログラムの紹介もありました。

次に、海外からの遠隔講演へとシーンは変わり、外国語としての日本語教育の分野の講演として南アジアにおける日本語教育についてスリランカの事例を中心にして、Dr. Samanthika Lokugamage氏（Sri Jayewardenepura 大学）と佐土井俊之氏（Lanka Nippon BizTech Institute, LNBTI）にお話を頂きました。まず、Lokugamage氏からスリランカにおける日本語教育の歴史と現状についてご紹介がありました。日本語学習者数の増加や教育機関の状況、日本語能力試験の受験者数などのデータを使って丁寧に解説いただきました。また、日本語の学習動機として日本への興味や文化への関心が挙げられ、特定技能実習生としての日本での就労も影響しているという説明がありました。続いてスリランカにおける日本語教育の実践事例としてLNBTIの取り組みについて佐土井氏にご報告頂きました。LNBTIはITと日本語教育に特化し、日本企業等への就職を目指す学生を育成するユニークな南アジア唯一の日系の高等教育機関で、スリランカと日本の教育文化や学生気質の違い、それへの対処法についてご紹介頂きました。

シンポジストの「トリ」の大役をお務め頂いたのは、大六野耕作理事長（明治大学）。「あればさらに良し！されど・・・英語能力は海外留学成功の必要十分条件か？」と題するご講演はフロアの熱い視線が注がれた内容で、多くの示唆に富む内容でした。英語能力と海外留学の成功要因（GPAスコア）から留学経験がキャリアに与える影響（交換留学経験者は高い割合で大企業に就職している）まで豊富なご経験と知見とデータをもとに具体的な事例を踏まえて、英語ができると楽だが必須条件ではなく、むしろ一般的な基礎的な基礎力や専門分野の知識の指標とも言えるGPAスコアの重要性が指摘されました。

フロアとのディスカッションでは、外国語を含む言語習得における母語の獲得の意義について深い議論が交わされました。また、幼少期から

のグローバル人材育成の重要性や基底学力（地頭）も議論されました。そしてグローバル化に対応するための言語教育の在り方としてコミュニケーション能力を重視した外国語教育が必要であり、従来の試験中心の英語教育からの転換が求められていることが確認されました。最後に、言語部会の代表発起人であるアーナンダ・クマーラ会長より総括コメントを頂戴しました。言語教育実践研究部会の具体的な活動内容や目標についてさらなる議論が必要であることや国際連携研究の可能性についても示唆を頂きました。

最後に、本記念シンポジウムの開催に際して、会場校の佐々木副会長・実行委員長と青柳九州支部長を筆頭とする全国大会実行委員会及び九州支部会員の皆様、さらには裏方としてご尽力を賜りました中村学園の教職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

<部会員募集>

当部会ではメンバーを常時募集しております。ご専門の分野・領域に関わらず言語部会の活動にご興味・ご関心のある方は右記QRコードまたはメールにてお申込みください。開催してほしい企画や取り上げるべきテーマもお寄せください。心よりお待ちしております。

文責 内田富男（言語部会部会長）

(6)【国際交流委員会報告】

昨年度末の理事会で承認をいただき、今年度はじめにニューズレター第44号でご報告いたしました通り、国際交流委員会は今年度より模様替えを行いました。教育連携部会で行ってきたオンライン国際交流などを引き継いで、「交流」の主体を教員から学生・生徒へ移して活動しております。

先に行われた全国大会で、そのキックオフイベントが行われました。「やさしい日本語」の使用を全面に押し出し、日本語学習者がスリランカ・ベトナムから参加し、小学校教員を目指す日本語母語話者の学生が簡潔な言葉遣いを意識しながら司会を務めました。オンラインのみの参加が45名、会場でブレイクアウトセッションのルームごとに教室を分けて司会学生がその映像を教室に映すという、試みもありました。完全日本語の国際交流、教室でのライブ中継と、教育連携部会時代にはなかったことも実施いたしました。時間が許す限り活発な発言が日本語学習者からあり、またSNSのIDの交換など、次の交流を示唆する動きもありました。最後は、オンライン参加の服部常任理事より好意的な講評をいただきました。

この交流の実現のためにご尽力くださった、LNBTIのクマーラ・佐土井両先生、ベトナムの勝又先生、会場校の佐々木先生、実行委員の皆様、特にスケジュールや機材でご配慮くださった青柳先生に深く感謝申し上げます。

文責 奥山則和（国際交流委員会委員長）

(7)【支部大会開催報告】

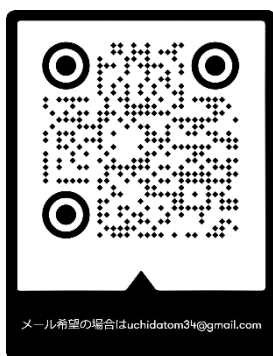
第8回中国四国支部大会開催報告

日時：2024年10月5日（土）

会場：岡山理科大学/岡山キャンパス（対面）

大会テーマ：「国内外における国際化とグローバル人材育成」

本大会では 県立広島大学の小川 俊輔先生をお呼びし、ボリビアに住む日本にルーツを持つ方々のライフストーリーや日本の特に九州地方におけるキリスト教に関する認識について講話をいただきました。日本のグローバルなつながりに関して、海外からの視点と日本からの視点を交えて、歴史を絡めながら理解を深めることができ、貴重な機会となりました。続く研究発表では、「インドと国際バカロレア」「平和教育」「高校における国際交



流」「総合的な学習の時間における国際教育実践」をテーマに発表が行われました。

参加者は 18 名で活発な質疑応答が交わされ大会後の情報交換及び懇親会にも多くの参加をいただき大盛況となりました。ご発表ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

(8) 【支部大会開催のお知らせ】

中部・関西 合同支部大会

(第 8 回 中部支部大会／9 回 関西支部大会) を以下の要領で開催いたします。

大会テーマ：日本におけるグローバル人材育成の現状と課題ーローカルの視点を踏まえてー

開催日時：2025 年 3 月 20 日 (木・祝)

13:00 ～ 17:30 (日本時間)

開催場所：近畿大学生物理工学部 (和歌山キャンパス) (和歌山県紀の川市西三谷 930)

2 号館 第 2 会議室他

内容概略：

- ・シンポジウム「地域のこれからとグローバル人材育成ー和歌山における企業の挑戦からー」
- ・ワークショップ「グローバル教師に求められる資質・能力」
- ・会場展示賛助会員によるプレゼンテーション
- ・研究発表 (一般発表／生徒・学生発表)
- ・情報交換会、懇親会

詳しくは HP をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

(9) 【年会費納入のお願い】

2024 年度の年会費を未納の会員は、早急に納入いただけますようお願い申し上げます。また、学会誌に投稿の際には、年会費の納入が必要です。納入状況は以下の会員限定ページでご確認いただけます。

https://j-agce.org/for_members/

【会費】

正会員 5,000 円

学生会員 1,000 円

大学会員 10,000 円

賛助会員 30,000 円

◆お振込での支払

ゆうちょ銀行 (振替口座)

口座記号番号：01700-0-126765

加入者名：グローバル人材育成教育学会

*ゆうちょ銀行以外の金融機関から上記口座に振り込まれる場合は、以下のようにご指定ください。

銀行名：ゆうちょ銀行 (9900)

店名：一七九 (イチナナキュウ) 店

店番：179

預金種目：当座預金

口座番号：0126765

◎**正会員・学生会員の振込**の際は、振込人名に必ず「会員番号と氏名」をご入力ください。

なお、振込人名と会員氏名が異なる場合 (例：所属大学名、法人名、通称氏名等の場合) は、大変お手数ですが、学会ホームページの「問い合わせ」より振込月日、会員番号、氏名をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

◎**大学会員・賛助会員の振込**の際は、振込人名に必ず「会員番号と大学名/ 法人名」をご入力ください。

<お問い合わせ>

グローバル人材育成教育学会事務局

https://j-agce.org/contact_form/

【文責】アーナンダ クマール

【編集】天木 勇樹